

#### (4) 讃岐国府跡調査事業 調査成果の概要

遺跡名 讃岐国府跡

調査主体 香川県教育委員会

調査担当 香川県埋蔵文化財センター

調査期間 令和3年11月1日～令和4年2月28日

調査面積 141㎡

出土遺物 コンテナ数 5箱  
(土器・石器)



第18図 遺跡位置図 (1/25,000)

#### 調査の概要

今年度の讃岐国府跡調査事業は、周知の包蔵地「讃岐国府跡」の西側外縁部(第18図)で調査を実施した。

この地点は、北と南を東西に延びる丘陵に挟まれた広く浅い谷筋の中に位置し、令和元年度の調査地(37次)の南側を通る、南海道の可能性が指摘されている「セイリュウ」と呼ばれる東西道路を西に延長した先に相当する。この「セイリュウ」という道に関しては、昭和53年度に行われた5次調査で、鼓岡神社の乗る丘陵裾を段状にカットした痕跡が見つかっており、それにより生じた平坦面が丘陵裾を切り通した道路遺構であると想定されている。この道路遺構が西側へ延伸する可能性の確認と合わせ、既往の発掘調査事例が無い西側外縁部における国府関連遺構の広がりについて確認するため、対象地内に3カ所のトレンチを設定して調査を行った。



写真30 調査地全景(東から)

#### (1) 近世(第19図)

39-1 トレンチでは、北半部に耕作に伴うと考えられる鋤溝状遺構群(写真31)を確認した。

39-2 トレンチでは北半部に遺構は認められず、地形も平坦になっていることから後世に削平を受けたと考えられる。

両トレンチ共に、南端で近世(18世紀代)に埋められた、比高差約0.7m以上の地山の切り下げによる切り通し状遺構(SX01)を確認した。切り通し状遺構の下は平坦(平坦面1)で、この面は層厚約15cmの近世包含層上に形成される(写真32・33)。39-2 トレンチではこの土を掘り込んだ大型の落ち込みSX03(写真34)を確認した。埋土中に17世紀代の遺物を含む。



写真31 鋤溝状遺構群全景(南から)

39-3 トレンチではトレンチ北端に約0.3mの地山の切り下げSX04(写真35)と平坦面があり、近世